

銘柄分析レポート：バリュート投資のアイデアマン

1 はじめに

投資の名著『価値の探究者たち』には、ウォルター・シュロスやアービング・カーンをはじめとして、12人のバリュート投資が登場します。

その中に含まれている唯一の日本人が、スパークスを率いる阿部修平氏です。本書では、阿部氏がどのような投資を行っていたか、時系列で紹介されています。

1990年代、まだ駆け出しだった私が抱いていた同氏に対する印象は「時流に乗ったビジネスを行っている小型株選びの名手」でしたが、実像は時代に合わせてバリュート投資の考え方を柔軟に適用するアイデアマンであったことが分かります。

- 1980年代、政府による運賃値下げを恐れるあまり、帳簿上の利益を押し下げるために何年もかけて土地を大量に購入しており、不動産市場の高騰でそれらの市場価値が著しく上昇している電鉄会社に注目。この投資アイデアはジョージ・ソロスに認められ、ソロスから日本株の運用を一任された
- 同じく1980年代、自社の時価総額の何倍もの価値を持つ、巨額の株式ポートフォリオを持っている損害保険会社が割安であることを見出し、多くの機関投資家から賛同を得た
- 1980年代の終わり、日本の小型株に関するリサーチが全くないことに気づき、小型株にバリュート投資の考え方を適用した。このアイデアは中東の政府系投資ファンドに受け入れられ、1億ドルを預かった
- マーケットが下落を続けた1990年代、バリュート投資の手法によって割安株と割高株を特定することにより、株式市場の上昇局面でも下降局面でも利益を得られるロング・ショート戦略を日本で最初に生み出した

今回の銘柄分析レポートでは、阿部氏の投資アイデアのうち、私たち個人投資家に向いている戦略に注目しました。